



# Weekly News

## 龍ヶ崎中央ロータリークラブ

2011.07.29

No.00666

R I District 2820 CLUB 50504

会 長：城出鴻二郎 幹 事：横澤啓二 連絡先：TEL 0297-66-3258 FAX 0297-66-3280 <http://rcrc.web5.jp>  
 事務所：〒301-0032 茨城県龍ヶ崎市松葉 5-12-6 例会場：〒301-0857 茨城県龍ヶ崎市泉町 1592-77 (ザ・ゴルフクラブ竜ヶ崎)



### 本日のプログラム

【クラブフォーラム】  
 クラブ奉仕 I・II  
 クラブ奉仕委員会

### 次回のプログラム

【納涼会】  
 会場「和美」(なごみ)  
 クラブ親睦委員会

### 7月の主な行事：地区各委員会研究会

#### 第 665 回例会報告

点 鐘：城出鴻二郎会長  
 ローターソング：四つのテスト  
 ゲ ス ト：なし  
 ビ ジ タ ー：なし

#### 会長報告：城出鴻二郎

■先週土曜日の高校生ボランティア・スクールに皆さん参加を頂きありがとうございました。横山さん、海老原さん、米島さん、川上さん、ご苦労様でした。



又、明日のジュニアについても宜しくお願い致します。横山さんは職業奉仕研究会で無理ですが、皆さん宜しくお願い致します。

大竹さんから聞きました。龍ヶ崎の塵芥処分場・焼却場ですが、8,000 ベクレルを超えたそうで、飛灰の埋め立てが出来なくなったようで現在 40 m<sup>3</sup>程度が保管されているようです。福島の新たな爆発が無ければ放射線量も低下すると思いますが、予断をゆるすことが出来ませんし、作業場の作業者の放射線汚染をどのように軽減し、煙突からの二次汚染を防止するか等問題があります。埋め立ては 100,000 ベクレルにして許可するように政府は検討していますが、難しい問題です。

研究会で、東海那珂 RC の稲田さんから現状の福島原発の状況解説がありました。無難に説明をされていましたが、一定の理解を促進することにはなつたようでした。いくつかの点でそれぞれに見解の相違がありますが、現時点では難しい問題で、稲田さんも苦慮されていました。詳しくは後ほどご報告いたします。

#### 幹事報告：横澤 啓二

■行事案内 来週も研究会が開かれます。23 日水戸

三の丸ホテルにて職業奉仕研究会があります。横山委員長よろしくお願い致します。

■第一回地区会長幹事会の案内が来ています。下館のダイヤモンドホールで 8 月 27 日に開かれます。

#### 理事会報告

■SAA について副 SAA を前期川上さん、後期米島さんで決定しました。

■合同の公式訪問について、片桐会長さんと調整し、概略従来方式の手順で行うが、クラブ協議会は 8 月 26 日中央、9 月 2 日守谷 RC で行い、ご公式訪問時はガバナー輔佐による報告とし、協議会と懇親会は 1 つにして設定することになりました。

■クラブの例会等に関しアンケート調査をすることになりました。皆さんには今週水曜日には配信されていると思いますが、ご意見を頂戴します。

担当は長友委員長さんです。ご協力をお願い致します。

■8 月 1 週の恒例の納涼会は和食和美に決定しました。詳細は親睦委員会からお知らせいたします。

■プログラムについて 8 月まで確認了承がされました。

■社会奉仕委員会で計画中の高校生ボランティア・スクールに関し、新たな取組みが確定しました。

8 月 25.26 日の両日で相馬の新地町において県立新地高校の高校生と連携して仮設住宅に避難疎開されている 50 世帯に花壇、日除け等の設置活動を予定することになり、市長さん以下、社共、親クラブの龍ヶ崎 RC さんと共同で実施する計画を承認いたしました。

■その他として、地区研究会登録料の承認。分区の分担金の承認を致しました。又、研究会の交通費補助に関し、深刻があれば、2000 円を支給することになりました。些少ですがご了承願います。

■龍ヶ崎の撞舞保存会へ 30000 円の支援を致します。以上です。



## 委員会報告

### 社会奉仕委員会

7月16日地区社会奉仕研究会、米島委員長の代理で出席いたしました。当日は高校生ボランティアスクールの開校式でしたから、時間に間に合わない場合の事を考えて代理いたしました。午前中ということで、午後とはとぼ返りで高校生ボランティア・スクールに参加いたしました。

講演会は東海那珂RCの稲田会長さんの講演があり、現在の福島原発について概要説明と、放射能放射線等々に関してご説明を頂きました。原子力開発機構のOBということもあって微妙な状況を微妙に説明することになって、御苦労されていました。一番の問題は、除染した放射性物質の後始末がまったく出来なくて、誰がこれから、何処でどうして、どういう風に目の前から、消滅させられるか、というようなテーマになっているようです。このまま、新たな爆発が無ければ、各地の測定値が下がっていきますが、新たな爆発があれば、元の本阿弥で、手のつけようがなくなります。会長私見ですが一般的には知られていませんが、トリチュウムの問題もあって、こちらはまったく表面には出ていないようですが、関係者はこれについても困っています。従来トリチュウムは殆ど影響が無いというように言われていましたが、英国の健康保護局は警告しており、日本では少しずつですが困り始めているようです。そして、稲田さんもこの関連企業ですし、よくわかっている専門家では、今後の影響がどうなるか、心配しているようです。しかし、当事者として何が出来たのかでもあり、非常に複雑でしょうね。

トリチュウムは放射線の飛散距離が短くベータ線ですから、なんとなく無害程度の認識で測定もほぼ出来ず、野放し状況にありますし、人体に入れば蓄積し、細胞に付着するというか、どうかするようで、将来的な突然変異の原因物質になるような気が致します。

又、放射性物質がエアロゾルで存在することについて認識はありましたが、前から申し上げているようにエアロゾルの挙動はこれらの関係者の認識よりはるかに複雑で且つ何処にでも入り込む物質状態にあることを殆ど理解していませんでした。マスクで事足れると言う感じの説明でしたから、この辺も問題かと思えます。

社会奉仕研究会はこの辺で、新世代研究会の報告を致します。こちらは、講演と、インター、ローター、ライラの分科会説明でした。インター、ローターは会員が減少していること、土浦南の主催でありました日大土浦高校のインターがなくなりました。又、組織はあっても休眠しているローターもあります。分區で対応できないか、などの説明でした。ライラに関しては当日の講演者が今回の研究会でも予備といいますかブレ講演されました。比して講演は、環境学習研究会といいますがNPO法人の副理事長さんで谷村春樹さんと

おっしゃって、非常に的確に要点をつくというか、革新的な言葉をロータリアンの皆さんにお話になっていました。

結論を申し上げますと、非常に有意義で、参加のロータリアンが何処まで理解したか、わかりませんでした。講評、総評で、ガバナー等誰も触れませんでしたから、わからなかったかもしれません。参加者ではそれなりに理解したロータリアンもいたと思います。後援者とこの数日メールのやり取りをしておりますが、講演の趣旨は自然に帰る、昔の行き方に変えることが大切というような説明で、世の中いくら進歩しても、酸素と水と太陽は人間には作れない、お金よりも自然の恵みに従って生きてきた日本人の生き方が大切で、感性と理性のバランスを保ちうるような生き方をしたいものだというような感じでした。

戦後、アメリカによって感性の重要性を教育現場から奪われ、理性にのみ生き方を頼っている現状で、見えるものしか信用しなくなった見えないものに対する畏敬の念や、見えなくても認識する感性を忘れて日本人に警告を発するような講演でした。感性を磨くことや再発見すること、眠っているような感性を目覚めさせることはそれほど難しくは無く、若者には大切な、そしていつでもそのような能力を再発掘できるということにも説明しておられました。そのようなきっかけをライラの機会に話しかけたいということでした。儒教に言う仁、義、礼、知、信・・・五常、五倫・父子、君臣、夫婦、長幼、朋友を原則に古事記にあるような原則的な立場にあるお話でした。

大丸の家訓である、先義後利のお話もあって、その根底には石田梅岩にいたる考え方で説明とご自身のありようを説明されておりました。メールのやり取りでは偶々同じ考え方になっているようなことで原点は古事記のような文献なのですということでした。

### 職業奉仕委員会

■7月23日、三の丸ホテルにおいて職業奉仕研究会が行なわれた。「歓迎のこたば」で川崎洋水戸RC会長(三の丸ホテル経営)は、今回の東日本大震災の際、停電、断水にもかかわらず翌日には水戸駅周辺では唯一ホテルの営業を行なった。

自分はホテル経営者である。この困難な状態にあつて、職業人としてロータリアンとして、今自分がなすべきことは一刻も早くホテルを再開することではなかろうか。それがロータリーの職業奉仕にもつながるのではないかという信念で職員一同徹夜して漕ぎ着けたらしい。

■とても勉強になった戸田一誠氏の講演は、例会報告後と次回に詳しく述べたいと思います。



## 本日のプログラム

「ポールハリスの来日」

亀尾会員

シカゴを出発したのは1935年1月22日で、大陸横断鉄道に沿ってアイオワのカウンシルブラックス・ワイオミング・ユタ・ネバダ・オクラホマと訪問しながら、1月28日サンフランシスコの地区大会に出席した。



この旅の同行者は、ポール夫妻、ロバート・E・リー・ヒルRI会長・RI理事の宮岡恒次を含む15名であった。大会後サンフランシスコ港をプレジデント・クーリッジ号で出航し、途中ハワイに寄港して横浜に向かったが、この船旅中の荒天で横浜港に2月3日入港の予定が2月5日の早朝に遅延し、日本でのスケジュールは大きく予定を変更せざるを得なかった。横浜ではニューグランドホテルでの休憩後汽車で東京に向かった。

東京では、二重橋・明治神宮を観光した後帝国ホテルで月桂樹の植樹をした。このホテルは東京ロータリークラブの例会場であるのと、このホテルの設計者がシカゴ人のフランク・ロイド・ライトで、関東大震災で市中が壊滅する中このホテルは無傷だったことからシカゴ人の誇りでもあった。

午餐会米山梅吉の主催で、芝公園の「紅葉館」で日本料理に芸者の接待で行なわれた。食後は三越百貨店、御木本本社を見て回った。

歓迎晩餐会は、東京会館で米山の司会で催され、貴族議長の徳川家達(いえさと)や内大臣斎藤実も出席した。 ※1 ※2 参照

晩餐会が終わると予定に追われるように、東京から夜行に乗って京都へ向かった。

京都ホテルで朝食をとり、車で二条城、桂離宮等を観光して車で大阪に向かった。大阪では、京都・大阪・神戸の3クラブ合同の歓迎晩餐会が70地区ガバナー村田省蔵(大阪RC)のもとに行なわれた。席上ポールにはポールハリスの胸像が、ヒル会長には七宝焼きの香炉が贈呈された。

晩餐会が終了すると、車で慌ただしく神戸に行き神戸港から再びプレジデント・クーリッジ号に乗船して上海に向けて出航していった。

両晩餐会でポールが行なった公演は、「He Profits most who serves Best」についてであった。儲け主義の実業界の競争の場で、公正に経営された商店や会社の中で、最も成功している秘訣は、永続的に成功を保障する唯一の信頼すべき方途は、他人のために尽くすこと、すなわちサービスである。シェル登は「サービスに報われる精神上の利益を、無視したのではない。人間社会の求利の観念を、最高のサービスの理想と調

和させようとしたものである。」と説き「このProfitはドルでもセントでもなく、人生のSomethingである。」ことを力説した。

日本を出航した一行は、上海と香港を訪問してからフィリピンのマニラに向かった。実は、この旅の目的はマニラで行なわれる第五回太平洋地域大会に出席するためであった。

大会が終わると日本の北野丸でオーストラリアに向かった。途中フィリピンのダバオ、インドネシアのメナド、オーストラリアのヨーク岬半島の北の木曜島にと三度投錨した。オーストラリアでは四週間滞在し、この間、ブリスベン、シドニー、メルボルン、タスマニアそしてメルボルンからシドニーに戻ってニュージーランドで三週間を過ごし、フィジーのスパからサモアのパコダを経由して、ハワイのホノルルからサンフランシスコへ戻るという長い極東訪問だった。

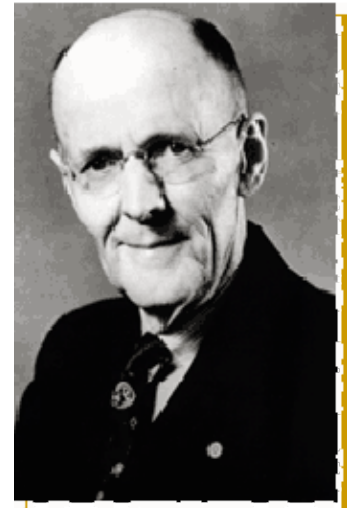


晩年ポールが回想録を書くとき、机上には日本の偉大なロータリアン米山梅吉の胸像が置かれていた。

「人生の最善なるものは、友誼の楽しみだ。友誼が国境や信仰や政治に左右されるとすれば、それはあまりにも滑稽だ。友誼は依怙を知らず、強すぎることも、多すぎることもあり得ない。それは人生を拡充し、優しく快くするものだ。」

ポールがよく口にする言葉であったようだ。

- ※1 主な出席者  
ロバート・リー・ヒル  
フランク・ロイド・ライト  
宮岡恒次 渋沢英一  
伊藤博文 井上 馨  
米山梅吉 徳川家達  
斎藤 實 村田省蔵  
賀川豊彦



- ※2 爵位 (華族令 1884-1946)  
(公家) (武家)  
公爵 五摂家 徳川宗家  
侯爵 清華家 御三家・30万石以上の大名  
伯爵 羽林家・名家 御三家・10万石以上の大名  
子爵 羽林家・名家 10万石未満の大名  
男爵 庶流の分家 1万石以上の大名の有名な大名の家老  
由緒ある神官

## 職業奉仕のチリを払う

戸田一誠氏（第2580地区研修リーダー）

■ロータリークラブとは、地域社会の代表的職業人が例会においてその人格を磨き、その功徳を地域社会全般に及ぼそうとすることを目的とする。「一般的奉仕クラブ」である。



よって、ロータリーの中心は「奉仕」。この立場からするとロータリーの奉仕は唯一「一般的奉仕」である。

■一般的奉仕とは、会員が例会において職業人としての心を磨き、その磨かれた心を持って社会一般を潤すことである。

金銭物質奉仕に徹する社会奉仕クラブが誕生するに及び、ロータリーの奉仕もその関係において明確化する必要から、「一般奉仕」のことを「職業奉仕」と呼ぶようになった。

この立場からすれば、ロータリーの奉仕は、唯一「職業奉仕」。これが最も広義の本来的な「職業奉仕」。

■すなわち、「職業奉仕」は「クラブ奉仕」と表裏一体の別の側面である。従って、「クラブ奉仕」の裏付けのない「職業奉仕」はロータリーの職業奉仕ではない。

■例会における相互啓発は、地域社会に存在する最もロータリー的な職業人を選考した結果なので、極めて良質な知性と奉仕エネルギーが満ち溢れていることが当然の前提。これが相互接触により更に優れた知性と奉仕エネルギーを生み、地域社会全般に伝えられる仕組みになっている。

■ロータリーは、「思想改良運動」。個人から職場その他社会全般に及ぶ。

自分の職場だけで行っていたのでは職業奉仕ではない。ロータリアンは、ロータリーが社会や業界に派遣したロータリーの代表。よって同業者や地域社会に対して、ロータリーが開発した「職業倫理」を提唱すべき倫理的義務を負う。

■最も広義の本来的な「職業奉仕」とは、奉仕の心の形成及び実践一般のことで、「クラブ奉仕」はその手続的側面であり、「職業奉仕」はその実体的側面。

実体的側面が「社会奉仕」や「国際奉仕」である。

社会奉仕：家庭や地域、職場で奉仕する。

国際奉仕：「奉仕」の心が諸外国に及ぶような実践活動

■クラブ奉仕⇔親睦⇔奉仕する心⇔職業奉仕⇔社会奉

仕⇔国際奉仕

難しい理屈で反って見えにくいものにしていただけないか。

■クラブ奉仕に手を貸さない。クラブ活動を分かち合おうとしない会員は、ロータリークラブの会員かも知れないが、ロータリアンとは言い難い。

■世界平和実現のきずな造りや礎になろうとする気概のある人材を強化育成しては、地域社会や業界、事業団体に送り返す。

この作業を、毎週世界中で実践しているのがロータリーである。

## 本日出席状況

会 員	20名	出席率	66.67%
出 席 者	9名		
出 席 免 除 者	2名	亀尾会員	吉澤会員
(定款第9条3節a)	1名	馬場会員	
Make-up	3名		

ニコニコボックス(目標額 600,000 円)

本日 5 件 9,000 円(本年度累計 28,000 円)

荒木会員：久しぶりに出席しました。  
長友会員：亀尾大先生。死ぬまで卓話お願いします。  
川上会員：前半 SAA 担当します。宜しくお願い致します。  
横山会員：このまま涼しくなるように！  
海老原会員：亀尾さん本日は宜しくお願いします。

## ロータリー豆知識

### 《識字率向上》

(亀尾会員)

1997年のRI理事会は7月を識字率向上月間に指定し、2005年までRIの強調事項に指定しました。全世界の非識字人口は約10億と言われ15歳以上の大人の約4分の1に当たります。その4分の3はアジア人で、3分の2は女性です。

非識字は三つの点で人類の前途を暗くしております。第一は、貧富の差による世界的社会不安の高まりです。第二は人口問題で、人口増加を抑制する最も有効な手段は母親への教育と言われております。三つ目はエネルギー問題と地球の環境保全です。非識字者は概して環境保全に無関心だと言われております。

例会の欠席は、水曜日 AM:10:00 までに川上副 SAA  
TEL 090-3497-0383 に連絡して下さい。